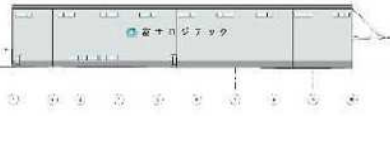
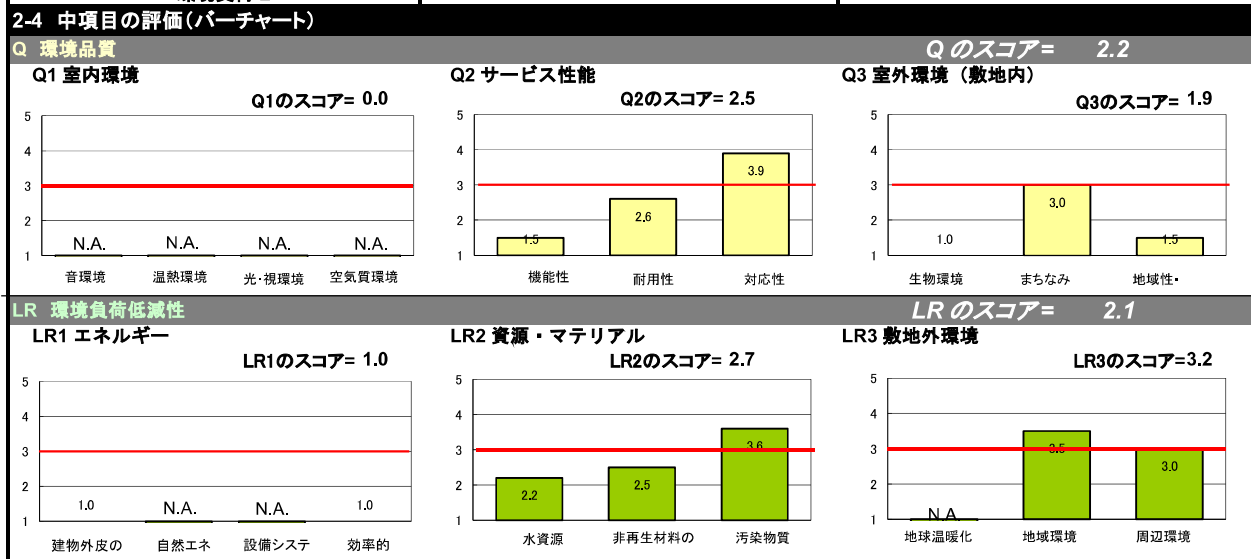
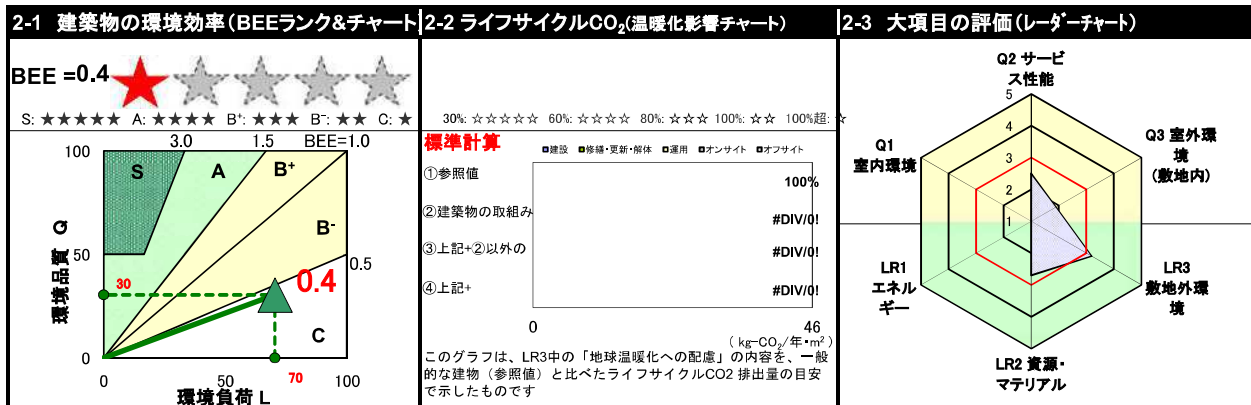


建築物名称	株式会社富士ロジテックホールディングス鈴川1号倉庫
受付日	令和5年12月22日
建物所在地	富士市鈴川町130-15
構造規模等	鉄骨造／地上1階／延床面積3,340.14平方メートル／新築
建物用途区分	工場
建築主	株式会社富士ロジテックホールディングス 代表取締役 鈴木庸介
工事完了予定日	令和7年1月8日

CASBEE[®]-建築(新築) 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

1-1 建物概要				1-2 外観
建物名称	鈴川1号倉庫	階数	地上1F	
建設地	静岡県富士市鈴川町130-15	構造	S造	
用途地域	工業地域	平均居住人員	0 人	
地域区分	7地域	年間使用時間	4,368 時間/年(想定値)	
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2025年1月 予定	評価の実施日	2023年12月19日	
敷地面積	10,282 m ²	作成者	佐野 恵子	
建築面積	3,160 m ²	確認日		
延床面積	3,340 m ²	確認者		



3 設計上の配慮事項		
総合	0	その他
Q1 室内環境	0	Q2 サービス性能
LR1 エネルギー	0	LR2 資源・マテリアル
		LR3 敷地外環境
		保管するだけの倉庫なので、燃焼機器はない。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

1. 建物概要										
建物名称		鈴川1号倉庫		BEE	0.4	BEEランク	C	★		
2. 重点項目への取組み度										
重点項目		得点 [※] /満点		取組み度			評価			
”ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)		1.6	/5				がんばろう			
”災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)		2.2	/5				がんばろう			
”しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)		3.5	/5				ふつう			
”緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)		2.3	/5				がんばろう			
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示 します。(スコア1.0＝1点、スコア5.0＝5点)				評価 凡例		よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満		
3. 重点項目についての環境配慮概要										
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。						内訳対応項目				
”ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)						得点		1.6		
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数)					Q-1	2	2.1	2.1.2	① 外皮性能
						Q-1	3	3.1	3.1.3	② 昼光利用設備
								3.2	3.2.1	③ 昼光制御
						Q-2	2	2.2	2.2.1	④ 躯体材料の耐用年数
								2.2.2	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔
								2.2.3	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔
								2.2.4	④	空調換気ダクトの更新必要間隔
								2.2.5	④	空調・給排水配管の更新必要間隔
								2.2.6	④	主要設備機器の更新必要間隔
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)					Q-3	1			⑤ 生物環境の保全と創出
						3	3.2		⑥ 敷地内温熱環境の向上	
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)					LR-1	1			⑦ 建物外皮の熱負荷抑制
							2			⑧ 自然エネルギー利用
							3			⑨ 設備システムの高効率化
							4	4.1		⑩ モニタリング
							4.2		⑩ 運用管理体制	
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)					LR-2	1	1.1		⑪ 節水
								1.2		⑪ 雨水利用システム導入の有無
								1.2.1		⑪ 雑排水等利用システム導入の有無
								1.2.2		⑪ 材料使用量の削減
						2	2.1			⑫ 既存建築躯体等の継続使用
							2.2			⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用
							2.3			⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用
							2.4			⑫ 持続可能な森林から産出された木材
							2.5			⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み
						3	3.1			⑬ 有害物質を含まない材料の使用
						3.2	3.2.1		⑬ 消火剤	
							3.2.2		⑬ 断熱材	
							3.2.3		⑬ 冷媒	
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭保管するだけの倉庫なので、燃焼機器はない。					LR-3	1			⑭ 地球温暖化への配慮	
						2	2.2		⑮ 温熱環境悪化の改善	
”災害に強いしずおか”の形成(Disaster)						得点		2.2		
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)					Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯ 耐震性
								2.1.2		⑯ 免震・制振性能
							2.4	2.4.1		⑰ 空調・換気設備
								2.4.2		⑰ 給排水・衛生設備
								2.4.3		⑰ 電気設備
								2.4.4		⑰ 機械・配管支持方法
								2.4.5		⑰ 通信・情報設備
								2.4.5		⑰ 通信・情報設備
”しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)						得点		3.5		
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)					Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画
							3	3.1	3.1.1	⑲ 階高のゆとり
									3.1.2	⑲ 空間の形状・自由さ
						Q-3	3	3.1		⑲ 地域性への配慮、快適性の向上
”緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)						得点		2.3		
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉑まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上)					Q-3	1			⑤ 生物環境の保全と創出
							2			㉑ まちなみ景観への配慮
							3	3.2		⑥ 敷地内温熱環境の向上
						LR-2	2	2.5		⑥ 持続可能な森林から産出された木材
					LR-3	2	2.2		⑤ 温熱環境悪化の改善	